

My Sister's Keeper 私の中のあなた

マスコミ向けの試写会で、映画記者や評論家たちがあたりかまわず涙する映画を久しぶりに観た。10月9日から、全国ロードショー公開されるギャグ・コメディケー・ジョンズ配給の米映画「私の中のあなた」だ。埼玉新聞社とボラスグループでは、一般公開に先立ち、23日午後7時（開場6時30分）から、越谷コミュニティセンターで同映画の試写会を行う。白血病の姉を救うために臓器を提供するドナーとして生まれた11歳の妹が主人公というショッキングなストーリー。



脇田巧彦のお先に拝見

もう姉のドナーにはならない。両親に訴訟を起こしたアナ、11歳。しかし、その決断にはある理由があった。

長女を助けるためにドナーになる二女を生む

白血病になった長女を救うために、臓器のドナーになるための子どもを産むことは許されるのか？日本では例を見ないショッキングなテーマを、この作品は選んだ。映画には原作があり、女流作家ジョディ・ピコー（1966年、ロングアイランド生まれの世界的人気作家）のベストセラー。重い病気を抱えた子どものために、家族がどんな犠牲や変化を強いられるのか。重いテーマだ。原作者はプリンストン大で文芸創作を学び、ハーバード大で教育学の修士を目指した。これまで15冊の小説を出版し、ニューヨークタイムズ紙のベストセラーリストの常連でもある。

ドナーとして生まれた11歳の少女が両親を提訴するという意外さ

冒頭、自分は姉ケイト（ソフィア・ヴァアジリア）のドナーとして生まれたという二女アナ（アビゲイル・ブレスリン）のショッキングなナレーションから始まる。さて、どんな展開になるのだろうと、スリリングな暗示が客席に投げかけられる。

家族構成はこうだ。サラ（キヤメロン・ディアス）とブライアン（ジェイソン・バトリック）の夫婦は、長男ジェシー（エヴァン・エリクソン）と長女ケイトの4人家族で暮らしている。しかし、2歳の娘ケイトが白血病にかかっていることが判明。幸せな家族の生活は一変する。両親は残された希望の一つとして、ケイトの命を助けるために、遺伝子操作でドナーとしてびびりたりの新たな子どもをもうけることを決意。そうして生まれてきたのが「創られた」二女アナだった。「姉が健康だったら、私は生まれていなかった」。11歳のアナは、姉ケイトを救うため、これまで何回も手術台に上り、臓器の提供を続けてきた。物心の付いたアナは、自分の体を守るために、辣腕弁護士キャンベル・アレック・ポールドウィン（事務所を訪ね、両親を訴えたいと行動に移す。しかし、その裏には秘密が。



ドナーとして生んだ二女アナに訴えられた両親は、裁判所でアナと闘う事態に

母親サラはもと弁護士だ。だが、今ではケイトを救うために仕事をやめ、看病に身をささげるときにはヒステリックな言動もその妻サラは、夫のブライアンは理解しつづも自分はどうすることもできない。長女を救うために別な子を生むことは倫理的に許されるのか？アナがドナー提供をやめようと思った真の理由は？

母親のサラは、どこまでアナに難題を押し付ける権利があるのか？どのひとつをとっても、ドラマになるテーマが複雑に絡み合っている。ケイトの病状は悪化の一途。抗がん剤と闘うケイトの姿は正視できないほどむごい。助けてやりたい。次々にシリアスな難題が提起されるが、ニック・カサヴェテス監督は、登場人物に笑顔を持たせ、明るい雰囲気でも包みこむ描写に徹して救われる。

死期が近づいた人間に生きる希望を持たせるにはどうしたらいいのか？

ケイトは入院を繰り返しながらも明るく笑顔で振舞い、同じ病気にむしばまれた青年テイラー（トーマス・デッカー）と恋に落ちる。二人の恋は、死を宣告されたような人生の中で、生きる光明のすべて。成就しない幸せと知りつつも希望をつなぎ、真摯（しんし）に愛し合う二人。周囲も二人のために環境を作り、すべてを支える。でも、テイラーはケイトを置いて旅立ってしまう。以来、ケイトは哀しさのあまり精神を病み、生きる希望さえ失って行く。悲劇だ。あまりにもつらい宿命のケイトに涙が頬を伝う。

ラストで、海辺に行きたいと願うケイト。父親は、海に行くなんて無謀なことと阻止する妻の猛反対を押し切って強行する。これまでに、妻主導だった生活に「ケイトを海に行かせないなら、君と離婚する」と、初めて夫権を発動。なぜ？

ケイトとアナ役の好演技に支えられ、救われた希有なホスピス映画

アナ役のアビゲイル・ブレスリンは「リトル・ミス・サンシャイン」（06年）で、史上4番目の若さでアカデミー賞助演女優賞にノミネ

人生は美しい。だからこそ、人生は美しい

ト。ハリウッドで引っぱりだこの女優だ。ケイト役のソフィア・ヴァアジリアも、頭を丸坊主にしての熟演が光る。キヤメロン・ディアスも初の母親役。リアリティを追求した演技で怖いぐらいだ。

さて、法廷での裁判はどういう結末になるのか？公判中にサラは娘アナの様子がどこかおかしいことに気付く。いったい、アナは何を隠しているのか？なぜ、大好きな姉を救うことをやめたのか？やがて、真実が告げられた時、アナの家族は衝撃の真実を耳にする。夫婦、親子、姉妹、家族。そして、一家を取り巻く様々な人間模様、愛、シロッキングでシリアスで、感動的。大いに泣かされたあとは暖かい結末が、生きるということ。人の情けや友情、人生のアラカルトをしみじみと見つめ直す気持ちを思い起こさせる映画だ。

希望と感動の物語に、この秋、あなた史上最高の涙が落ちる！

